

イノベーション人材育成 センターの役割

四国経済連合会参与(徳島大学長)

青野 敏博



平成18年から平成20年にかけて、わが国の戦後の経済発展を支えてきた団塊世代が順次定年を迎え、大量に退職することになります。特に製造業に携わる熟練の方々が引退することは、産業界にとって大きな痛手です。

平成17年度に経済産業省の「産学連携製造中核人材育成事業」に応募した徳島大学の「精密機械分野における中核人材育成プログラムの開発」は1位で採択されました。これは経済のグローバル化や団塊世代の大量退職などの製造業の厳しい環境に対応するために中核人材の育成を最優先する必要があると認められたものです。

実際のプログラムは、平成17年度は「加工組立管理者基礎講座」および「制御技術管理者基礎講座」各々15名の2コースを組み、7月20日に全国に先駆けて毎週水曜日の午後に授業をスタートしました。平成18年度は2コースを合併して「生産管理者技術講座」30名で実証講義を60時間行った後、インターンシップをコンソーシアムの5企業で20週間行って、現場での指導を受けました。

2年間で授業と実習を合わせて70週間(300時間)の研修を受けて頂きましたが、講師は徳島大学の工学部教員や企業の幹部・技術者などで構成され、産学官の密接な連携のもとに熱心に指導され感謝しています。また、授業を受けた研修生の皆様も、多忙な業務の合間を縫って貴重な知識と技術を修得されました。2年間の

課程を修了された方には、平成19年3月に学長名で「テクノマイスター」の称号を授与しました。これらの経験を工場に持ち帰り、工場にイノベーションを起こして下さるものと期待しています。

もう1つの成果は、修了生の皆様がイノベーション・クラブを結成し、その後も活動・親睦を図っておられ、受講後も徳島大学の教員を身近に感じていることです。企業で生じた課題をもとに今後徳島大学との共同研究などの交流が一層進展し、産学官が共に発展することを願っています。

このプログラムに対する経済産業省からの補助金は、平成18年度で終了しましたが、徳島大学では自立化事業として知的財産本部が中心となり「イノベーション人材育成センター」を平成19年4月に設置しました。このセンターを核にして、平成19年度から2年計画で「産学官連携製造中核人材育成講座」を開講することができました。研修人数は44名と多く、前回の研修が充実していたことを聞いて応募された方が多いようです。

徳島大学の活動目標は教育、研究、社会貢献が3本柱になっていますが、産業界における重要な人材育成のお役に立てることはこの上ない喜びです。今後本講座が益々発展することを願っています。